

参加申し込み方法 11月8日(水)23:59までにお申し込みください

1

下記のURLもしくは二次元バーコードコードより、参加申し込み・決済サイトからお願いします。

<https://bit.ly/3pSSvkB>



2

申し込み・決済サイト

販売条件をご確認の上「チケットを申し込む」をクリックしてください。



3

チケット申し込み

Yahoo JAPAN IDをお持ちの方は「ログイン」して購入手続きが可能です。ご希望のチケットの枚数を＋ボタンで1にしてください。ここからはIDをお持ちで無い方の手順となります。赤枠の「**ログインをせずに申し込む**」をクリックしてください。アンケート入力に進みます。



4

チケット申し込み

アンケート入力アンケートの必須項目を入力し、「**次へ進む**」をクリック。お支払い情報入力画面にすすみ必須項目を入力し、「申し込み内容を確認する」をクリック。内容をご確認、完了いただき参加登録・決済が終了します。終了時に登録のメールアドレス宛に登録内容のメールがとどきますのでご確認ください。



Zoomからの視聴URLのご連絡

11月9日にZoomウェビナーへの招待メールをお送りさせていただきます。10日になってもメールが確認できない場合にはメールアドレス

webinar20231111@medical-meeting.jp

までご連絡ください。

PCの場合は迷惑メールに振り分けられる場合があります。スマホなどキャリアメールの場合はPCからのメール受信設定で届かない場合がありますので設定をご確認ください。

Zoomからのメール



Zoomから届いたメールの、**ウェビナーに参加**（赤枠）のリンクを開催時間になりましたらクリックしてください。ウェビナーに参加することができます。リマインドメールも開催1日前と1時間前に送信されます。そのメールからも参加することは可能です。

会場参加1単位・WEB視聴0.5単位 ご不明点は下部、弊社担当者にご連絡ください。

- 日本眼科学会専門医制度委員会の見解より、ご来場の先生は1単位、Web視聴の先生は0.5単位を取得できます。
- Web視聴の場合、東京・神奈川・千葉・埼玉にお勤め・在住の先生、もしくは帝京大学医学部眼科学講座教室員・同門の先生に単位付与されます。

ご不明点がございましたら下記にお問い合わせください。

hiroto-yoshida@senju.co.jp 千寿製薬 吉田 / 当日連絡先: 080-1472-6832 千寿製薬 木戸

帝京大学 眼科学術 講演会

専門医認定事業番号：59242

第38回

ハイブリット
開催

日時

令和5年11月11日 土 16:30～

場所

メトロポリタン池袋3F「カシオペア」
(豊島区西池袋1-6-1)

会費

1,000円

TEL

03-3980-1111

16:20～16:30

「ラニビズマブBSセンジュ」製品説明 千寿製薬株式会社

開会のご挨拶 / 井上 裕治 先生 (帝京大学 医学部眼科学講座 主任教授)

特別講演I / 16:30～17:30

「黄斑疾患に対する抗VEGF治療の考え方Update」

座長：井上 裕治 先生 (帝京大学 医学部眼科学講座 主任教授)

演者：小畑 亮 先生 (東京大学 医学部眼科学教室 准教授)

特別講演II / 17:30～18:30

「角結膜炎診療と抗菌薬」

座長：三村 達哉 先生 (帝京大学 医学部眼科学講座 准教授)

演者：佐々木 香る 先生 (関西医科大学 眼科学教室 准教授)

会場にてお弁当をご用意しております。

会場にてお弁当をご用意させていただきますので、裏面の事前申し込みへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご参加には**事前登録**が必要です。
(現地参加・WEB視聴)

惜秋の候、先生方におかれましてはご清祥の事とお慶び申し上げます。さて、この度「第38回帝京大学眼科学術講演会」を下記の要領で開催させていただきます。ご多用中恐れ入りますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

ACCESS

電車

- JR池袋駅メトロポリタン口より徒歩1分
- 池袋駅西口(南)より徒歩3分

お車

- 首都高速
- 西池袋インターより5分
- 北池袋・護国寺・東池袋インターより7分

正面玄関のロータリーよりお入りいただき、玄関前を通って地下駐車場へのスロープをお降りください。

※駐車場のご予約は承っておりません。
※土・日・祝は混雑のため、満車の場合がございます。
※飲酒後の運転はお控えくださいますようお願い申し上げます。

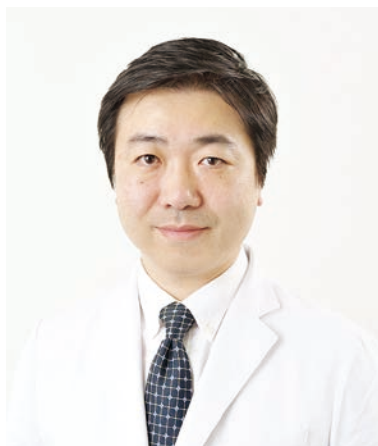




「黄斑疾患に対する 抗VEGF治療の考え方Update」

小畑 亮 先生（東京大学 医学部眼科学教室 准教授）

加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、または病的近視などの黄斑疾患に対する抗VEGF療法の有効性と安全性はほぼ確立しているものの、適切なタイミングに適切な加療を行わないと、期待する効果が得られない治療であるといえます。また近年では第2世代と呼ばれるような新たな薬剤の登場や、バイオシミラーの登場を受けて、どの薬剤をどのように使い分けるかについて悩ましく思う機会も増えるようになりました。本講演では、先行研究および自験例に基づいた、「どのような症例」に「どのようなタイミングで」抗VEGF療法を行っていくかについて、最近のアップデートも含めて概説したいと思います。先生方と共に「現時点におけるベストの診療」と、「患者さんにより変わりうる最適な治療法」を考える一助となれば幸いです。



平成10年 3月 東京大学医学部医学科卒業
平成12年 4月 東京大学医学部附属病院 眼科医員
平成13年 4月 大宮赤十字病院(現さいたま赤十字病院)眼科
平成22年 4月 医学博士号取得(東京大学)
平成23年10月 東京大学医学部附属病院 眼科助教
平成27年 7月 東京大学大学院医学系研究科眼科学 講師
令和 4年 4月 東京大学大学院医学系研究科眼科学 准教授

memo



「角結膜炎診療と抗菌薬」

佐々木 香る 先生（関西医科大学 眼科学教室 准教授）

日常の角結膜炎では多くの場合、まずキノロン点眼が処方される。多くの場合、治癒に向かうが、実際の臨床では、抗菌薬だけでは治癒させることができないことが多い。まずは、初期の鑑別診断にそのポイントがあるように思う。実臨床では教科書に載っているような典型例は少なく、ちょっとした小さな所見が重要なことが多い。たとえば、抗菌薬点眼やステロイド点眼を持っても治癒しない「難治性結膜炎」は、薬剤耐性菌による結膜炎以外に、涙小管炎、流行性角結膜炎、眼部带状疱疹、偽眼類天疱瘡、全身薬剤による結膜炎、重瞼術後縫合糸障害、眼窩部膿瘍や腫瘍などバラエティに富む疾患の可能性がある。眼瞼の偽膜、色素沈着のような痂皮、円蓋部の牽引、皮膚発赤の形状、眼瞼結膜の薄い癬痕など、ちょっとした所見に目を向けることが大切である。また「難治性の角膜炎」ではシールド潰瘍、マイボーム腺関連角結膜上皮症、カルシウム沈着などの鑑別も必要である。またコンタクトレンズ装用者ではアカントアメーバとヘルペスの鑑別は必須である。キノロン点眼を投与しても難治だからと抗菌薬を上乗せする前に、潰瘍底の性状や触感、周辺部角膜の透明性、血管侵入具合など違った角度から観察することが大切である。多くの結膜嚢常在菌がキノロン抵抗性となっている現在、周術期を含め、日ごろの抗菌薬点眼の使用法を見直す時期にきていると思われる。本講演では難治性角・結膜炎の診断・治療のtipsをお伝えし、抗菌薬を必要な場面で必要な量で使用するために、少しでもお役に立つ講演にしたいと思う。



1986年 3月 大阪市立大学医学部卒業	2006年 1月 出田眼科病院診療部長
1994年 3月 大阪大学大学院博士課程卒業	2012年 4月 JCHO星ヶ丘医療センター眼科部長
大阪大学医学部眼科学教室関連病院勤務を経て	2019年 9月 関西医科大学眼科 病院准教授
1998年 7月 多根記念眼科病院	2020年 9月 関西医科大学眼科 准教授
2004年10月 宮田眼科病院	滋賀医科大学非常勤講師兼任

日本眼感染症学会評議員・監事 / 日本角膜学会評議員 / インフェクションコントロールドクター (OI0015)